

調査項目 ⑤「都市公園における防犯対策」に関する調査研究

調査年次 平成28年度（9次調査）

目的

都市公園は、誰もがいつでも利用できる公の施設で、多くの市民に利用されている。その一方で、犯罪抑止力が低下した場合には犯罪の発生場所にもなりうる。都市公園における犯罪の程度は大小様々で、また地域によって犯罪の傾向は違うものの、全国どの地方公共団体においても公園利用者、地元自治会等から防犯対策に関する要望が多く寄せられていると考えられる。

また、誰もが利用できる都市施設という性格を有する都市公園では、公園施設等の器物破損や放火・その他犯罪の発生、公園内での自殺など、公園の安心な利用を脅かす事態も起きている。

本調査では、財政状況が悪化し、公園事業全体のコストが縮減される中、効果的・効率的な防犯対策の取組事例を研究し、誰もが安全・安心に利用できる景観に配慮した美しい公園づくりを実施することを目的とする。

概要

以下の内容について調査を行った。

- ①公園で発生しうる犯罪等の整理
- ②都市公園における防犯対策の整理とその効果分析
- ③先進事例調査
- ④防犯効果の高い公園の整備及び管理運営の方策検討

結果

都市公園で起きている主な犯罪は、公園施設の器物破損、自殺行為、盗難などのその他犯罪・不安に関連した事象、放火の順となっている。このような犯罪に対応する方策としては、防犯まちづくりの考えが有効で、ハード面とソフト面の両面から進めることが必要である。先進事例としては、北九州市が防犯に配慮した施設整備についてわかりやすく解説した「防犯コミュニティガイド」、福岡市の警固公園で、防犯と景観の両立をデザインコンセプトとし再整備した事例、東京都では、危険箇所点検に基づくまちの環境改善となる調査シートの活用方策を提示している。庁内調整などで使用できるように、今回の調査で実際に起こっている都市公園での犯罪などや、ハードソフトの両面からの維持管理、補修、再整備などの各レベルに応じた防犯対策とその留意点などを取りまとめた「都市公園における効果的・効率的な防犯対策集」を作成した。

課題

本調査からは、多くの都市の公園で様々な犯罪等が起こっていることが明らかになり、いくつかの効果的な対応策が整理できたが、その対策にも課題や留意点があることも明らかになった。犯罪に対する公園での危険因子を除く防犯環境設計（ハード）と、公園管理者や地域住民による対策（ソフト）が具体的に実行されるよう、本調査の成果である対策集を活用し、行政内部、市民との対話の中で効果的な手法の共有を図っていくことで、大都市における安全・安心な公園づくりが進められると考えられる。

調査結果の反映等

キーワード

安全、安心、防犯

事例公園等

北九州市「防犯コミュニティガイド」、福岡市「警固公園」